

全国連覇を目指す渡邊、小泉、稲垣の3選手



5月に掛川市で開かれた、県高校ARDF(方向探索)競技大会で吉原工高電子科A

「ダントツ」で連覇を 吉EARDF 全国に向け練習強化

RDF課題研究グループの小泉雅人リーダー(3年)が個人の部で優勝を果たした。

スタート



ARDF競技の様子(提供写真)

団体の部も準優勝を果たし、稲垣歩夢さん、渡邊朋輝さん(いずれも3年)と共に、7月に新潟県で開催される全国大会への出場を決めた。

同校課題研究によるARDF大会への出場は、この時点で最後となることから、前年に続く全国制覇に向けて猛練習に取り組んでいる。ARDF(Amateur Radio Direction Finding)は、アマチュア無線の電波を使った方向探索競技。指定されたエリア内に隠された5基の無線送信機から発信される電波を方向探知機で受信し、コンパスと競技用地図で探し出す競技。

方向探知機の改良と山野を駆け回る体力が求められ、走行距離は1回2時間の競技で8*を超えていることもある。団体戦は各チーム上位3人のタイムで競う。県大会は高天神城跡と周辺を会場に行われ、県内6校から15チーム70人が参加し、144MHzの周波数で熱戦を繰り広げた。同校では、鈴木孝由

教諭の指導で放課後に徹底した走り込みと筋力トレーニングを重ね、他校の選手を上回る体力を錬成。休日には丸火自然公園で探索訓練に取り組んだ。方向探知機のアンテナには金属製の巻き尺やパドミントンラケットのシャフトを用いるなどして感度アップと軽量化を実現した。

勝因について小泉リーダーは「当日の天気が良く気温が高くなったことから体力勝負となった。普段のトレーニングの効果を

十分に発揮できたと思う」と振り返った。全国大会での目標は3人で上位を独占し、「ダントツ」の連覇を決めること。小泉リーダーは「体力をさらに強化し、初期測定の精度も上げた」と、稲垣さんは「探索力を高めタイムを縮め個人でも優勝を目指したい」、渡邊さんは

「メンバー2人もライバル。試合までに実力をアップしたい」とそれぞれ抱負を話した。鈴木教諭は「諦めることなく最後まで一生懸命取り組みれば結果は必ずついてくる。連覇で弾みを付け、最後の試合となる11月の全日本大会で有終の美を飾ってほしい」と期待している。

富士ニュース 2015年6月19日(6面) 記事
(同社編集部掲載許可取得済み)